

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472800269		
法人名	社会福祉法人 大樹会		
事業所名	グループホーム「結の里(ゆいのさと)」ユニット1		
所在地	大分県玖珠郡九重町大字右田3156-7		
自己評価作成日	平成25年 1月15日	評価結果市町村受理日	平成25年6月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成25年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方々が生活してきたエリアに向く機会を多く持つことを心掛け、また、趣味趣向に合わせた楽しみ事を企画、提供していくことで、ストレスが軽減し落ち着いた生活を送れるよう支援している。他の併設サービスにはないものを考え、地域に向く利用者の方々を地域の方が見て、サービスに興味を持っていただけるようになればと外出に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・普通の生活が送れるよう、毎日入浴や食事づくり、洗濯ものたたみなど、継続できるよう支援している。また、日常生活がハピリとなる、利用者本位の生活支援が行われている。
 ・和の落ち着いた空間づくりで、懐かしい心配りをしており、馴染んだ生活を家庭的な雰囲気でも過ごしている。
 ・職員間のチームワークが良く、職員の運営者に対しての信頼も厚く、サービスの質の向上のための意見やアイデアを積極的に出し合い、その人らしく暮らせるケアに取り組んでいる。
 ・毎月、防災訓練を実施し、地域消防団の支援体制もできている。また、予防のため埃をためないように電気器具の取扱いに注意するなど配慮している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生活してきた地域へ出向くことで、利用者個々が「地域の人」として生活していけるように支援するという考え方をスタッフ全員で共有し、実践につなげている。	人としての関わりを大切にし、その人らしさを尊重したケアに取り組んでいる。また、地域に根差した支援の実践に繋げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な交流というまではできていない。買い物や理美容に出かけたり、地域での行事には積極的に参加することで交流する機会を作っている。	馴染みの地域の理容店や美容院や買い物に出掛けている。祭りや駅伝の応援と地域の催しに参加している。地域の避難場所は、近隣の高齢者のよりどころとしての相談場所となっている。地域の方々は利用者を見守ってくれており、お互いに支え合う関係である。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の委員を通じ、認知症の方の対応に関する相談についてはいつでも対応できるようにしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではサービスの実情や事業所がおかれている状況についてを報告し、それに関する意見をもらっている。サービスに反映されるような意見は積極的に取り入れていく。	定期的な推進会議が開催され、活動内容や防災のことも話し合っている。長崎の火災の直後に地域防災と支援について取り上げ、外出時も含め、日常的に近所が支えてくれる体制に結び付いている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の入退居についての報告や、待機者の状況、サービスの実情や事業所がおかれている状況を報告、相談している。	高齢者担当職員や包括支援センターと、日頃から連携が取れており、困難なケースなどを相談している。情報を共有し、地域に応じた取り組みを話し合っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止についての施設内研修を行っており、禁止行為を正しく理解してケアに取り組んでいる。	法人内全体で、身体拘束をしないケアの研修を行っている。ホーム内の造りや飾りを工夫している。また、近所が支えてくれているため外には自由に出ることができ、職員は寄り添った支援に心掛けている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に関する施設内研修を行っており、スタッフ全員が虐待防止に努めている。		

事業者名: グループホーム結の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を活用するような事案はないが、必要に応じて制度を活用できるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約に関する事項については、説明に時間をかけ、内容をしっかり理解、納得していただいているから行うようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフ全員が、家族に近況報告する際や、利用者に関わる際に運営に関する意見や要望があれば、事業所全体で話し合い、その事案を運営に反映できるように取り組むようにしている。	面会時に家族が発言しやすい雰囲気をつくり、関係ができています。利用者も自分の思いや意見を積極的に出し、気軽に外出できる仕組みに反映している。言った意見が自由に話せる雰囲気である。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で上がってくる意見や改善策に提案や解答を含めて取り組むようにしている。	運営者は、職員の働きを高く評価しており、職員は前向きな意見を出し、質の高い利用者支援のための職員配置や増にも反映している。職員のアイデアを実践に移し、ケアの質を高める取り組みをしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会労務士とともに就業規則、就業条件等に社会情勢に合わせて検討、決定している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	限られた人員の中で十分とは言えないが、外部研修、施設内研修、他施設との意見交換をできるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	老施協在宅専門委員会グループホーム小委員会の委員になっており、会議や研修で他の事業所と情報交換をすることでサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申し込みが出た段階から入居が近づくにつれて本人と面談する機会を増やしていき、関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたって、家族が不安に思っていることや本人に対しての思いを大事にし、家族とケアの方向性を共有するようにして関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急の場合も含めて、その時の本人の状況に応じたサービスを勧めるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	地域の行事や習慣、季節の食材の調理法等、スタッフも利用者から学ぶ姿勢で接することで共に暮らすという関係づくりに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ことあるごとに家族と連絡を取り、近況報告して家族と事業所が本人についての情報を共有して家族と事業所で本人を支えていく関係作りをしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の方々が生活してきた地域へはできるだけ出向くようにしており、買い物や理美容等も行きつけの店を利用するようにして関係が途切れないようにしている。	馴染みの商店へ買い物に出掛けたり、自宅へ着替えを取りに帰る際には、ご近所さんと会話するなど楽しんでいる。隣接のデイサービスへ友人が会いに来るなど、繋がりを大切にする支援を行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮しテーブル配置を決めたり、活動を促す際のメンバーを決めたりすることで、できるだけストレスなく過ごしていただけるようにしている。		

事業者名: グループホーム結の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も相談の内容に合わせて支援していく体制を作っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望、意向については家族から情報を得たり、日頃の会話の中から拾い上げるようにして、本人、家族の意向に沿った生活が送れるように努めている。	利用者が大切にしていることを具体的に25項目聞き取り、日常生活での言葉や表情を汲み取って書き込んでいる。好きなことや趣味がプランの中に反映されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、ケアマネ、他のサービス提供者から情報を得るようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態やできること、できないことを把握しており、利用者個々のペースで過ごしていただいている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人からの意見に合わせて計画を立てていき、月一回のカンファレンスや状態が変わった際に状態に合わせて見直しをするようにしている。	毎月のカンファレンスで職員の観察したことや意見をもとに家族、本人の思いをケアプランに反映している。ケアプランに沿って話し合い、モニタリングしている。また、記録もプランと連動し、見直しに活かしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや行動、言動の変化は記録し、スタッフ全員で情報を共有できるようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族からの要望に対してはいろいろな方法を考え、できるだけ早く対応するように心がけている。		

事業者名: グループホーム結の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活用できる地域資源は積極的に活用し、自宅で暮らしていたときとできるだけ同じ感覚で生活できるようにしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の際や体調不良の際にかかりつけ医に状態を報告し、治療が必要であれば、本人や家族の希望にあわせて他の医療機関の受診を勧めるようにしている。	かかりつけ医へ受診すると安心感があり、定期的にドクターの見守りがある。専門医療が必要な方は本人の希望や適した機関を紹介し、受診に出掛け、職員と家族で情報を共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一日二回のバイタルチェックを併設施設看護師に確認してもらい、体調不良やバイタルに変化が見られれば相談、助言をもらうようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはこまめに様子を伺いに行き、家族、病院関係者と情報交換をして、状態に合った対応ができるようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に状態が変わった場合についての方針を話し合っており、状態の変化が少しずつ見られるようになった段階で、再度状態に合わせたサービスへの変更や症状によってはターミナルケアも含めて話しあうようにしている。	看取りの経験があり、希望により受け入れている。入居時にできることを伝え、状況に応じて話し合っている。医療機関の往診もあり、緊急時の連携体制も整っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応するようにしている。また、時間帯によっては併設施設看護師に協力してもらうようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を実施しており、避難経路の確認をしている。法人で地域の消防団を交えて避難訓練を行っている。	毎月防災訓練を実施し、身体の状態別の避難誘導方法をシミュレーションしている。電気器具の取扱いや掃除、配線など注意している。近隣へも援助を呼び掛け、緊急時に備えている。地域の避難所となっており、地元消防団との連携もできている。	

事業者名: グループホーム結の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格、誇りを尊重し、場所や内容に合わせて声のかけ方を考えるようにしている。	一人ひとりの人生を把握し、プライドを尊重した声掛けや接し方を行っている。会話のつじつまが合わなくても、さりげなくフォローして困らないよう繋いでいる。トイレ誘導も本人だけに分かるように、耳元で声掛け支援をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の場面を増やすことで、本人の思いや希望が出せるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事や全体での活動以外は利用者一人一人が自分のペースでいたいことをしながら生活できるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好む衣類を選んでもらったり、理美容の希望があればできるだけ早く対応するようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本となる献立はあるが、季節のものや食べたいものがあれば食材を用意し、能力に合わせて調理、盛り付け、配膳、片づけを一緒にしている。	三食手作りで野菜の皮むきや下準備など、利用者のできることを基にメニューも考えている。新聞広告を見て料理の献立を話すなど、家庭的な雰囲気を大切にしている。誕生日には、個別に好きなものを食べたり、ホーム内でのアウトドア企画も実践している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士が基本となる献立をたてており、それに沿って食事の用意をしている。食事、水分チェックをし、利用者個々の摂取量の変化をみるようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合わせて口腔ケアを支援している。		

事業者名: グループホーム結の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをし、排泄パターンを把握して利用者個々の状態に合わせてトイレで排泄ができるよう支援している。	排泄パターンから時間やサインを読み取り、できるだけ布の下着に移行できるよう支援している。長時間の外出時は、リハビリパンツを使うなど、状況に応じた対応を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や漢方薬を使用し便秘予防をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には毎日午後から夕方までに入浴の声かけをしているが、要望があれば夜間の入浴も対応している。	毎日入浴している。また、希望すれば夜間入浴も行っている。入浴を嫌う方には、タイミングを見て入浴を勧めている。眠れない方には、夜間足浴をしている。要望により同性介助にも配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の体力や習慣に合わせて休息をとるようにしている。夜間は利用者個々に合わせて寝具や冷暖房を調整し、快適に眠れるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェックをし、処方された薬を確実に内服するようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の能力に合わせた作業を促したり、外出の機会を増やしたりして張り合いのある生活を支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があればすぐに、またはその日のうちに出かけられるように心がけている。外食やイベント見物、水族館見学等も実施している。	希望があれば、できるだけ早く外出するように心掛けている。テレビを見て、行きたいと言う気持ちになれば、お雛祭り、相撲観戦、駅伝応援、祭りや外出支援を行っている。また、個別の対応や日常的にホーム周辺の花の手入れ、散歩と外気に触れている。	

事業者名: グループホーム結の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、本人が管理できる分だけの金額を持っていただくようにしており、買い物に出かけた際に支払いをすることを支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて支援している。手紙や贈り物がきた際には返事を書いたり、電話で話をする支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や飾りものを季節によって飾るようにし、季節感を味わっていただいている。	昔懐かしい障子や木製の戸、古布を使ったアンティークな飾りなどの雰囲気づくりをしている。また、季節の花がいたるところにみられ、水槽や池で魚釣りができる工夫や、干し柿づくりなど快適な暮らしができるよう職員が様々なアイデアを出している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者個々がゆっくりできる場所で思い思いに過ごしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族や本人と相談して自宅で使っていたものや愛着のある物を持ってきていただいたり、部屋でゆっくり過ごしてもらうためのものを用意していただくようにしている。	家具や神棚、写真、置物、感謝状など、本人が喜ぶ品を持ち込み、昔の我が家のような雰囲気や、ゆったりと部屋で過ごせるようにしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の手すりを多くし、安全に自立した生活を支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472800269		
法人名	社会福祉法人 大樹会		
事業所名	グループホーム「結の里(ゆいのさと)」ユニット2		
所在地	大分県玖珠郡九重町大字右田3156-7		
自己評価作成日	平成25年 1月15日	評価結果市町村受理日	平成25年 6月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成25年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方々が生活してきたエリアに出向く機会を多く持つことを心掛け、また、趣味趣向に合わせた楽しみ事を企画、提供していくことで、ストレスが軽減し落ち着いた生活を送れるよう支援している。他の併設サービスにはないものを考え、地域に出向く利用者の方々が地域の方が見て、サービスに興味を持っていただけるようになればと外出に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(グループホーム結の里 ユニット1と同様)

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生活してきた地域へ出向くことで、利用者個々が「地域の人」として生活していけるように支援するという考え方をスタッフ全員で共有し、実践につなげている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な交流というまではできていない。買い物や理美容に出かけたり、地域での行事には積極的に参加することで交流する機会を作っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の委員を通じ、認知症の方の対応に関する相談についてはいつでも対応できるようにしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではサービスの実情や事業所がおかれている状況についてを報告し、それに関する意見をもらっている。サービスに反映されるような意見は積極的に取り入れていく。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の入退居についての報告や、待機者の状況、サービスの実情や事業所がおかれている状況を報告、相談している。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止についての施設内研修を行っており、禁止行為を正しく理解してケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に関する施設内研修を行っており、スタッフ全員が虐待防止に努めている。		

事業者名: グループホーム結の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を活用するような事案はないが、必要に応じて制度を活用できるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約に関する事項については、説明に時間をかけ、内容をしっかり理解、納得していただいているようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフ全員が、家族に近況報告する際や、利用者に関わる際に運営に関する意見や要望等があれば、事業所全体で話し合い、その事案を運営に反映できるように取り組むようにしている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で上がってくる意見や改善策に提案や解答を含めて取り組むようにしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会労務士とともに就業規則、就業条件等に社会情勢に合わせて検討、決定している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	限られた人員の中で十分とは言えないが、外部研修、施設内研修、他施設との意見交換をできるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	老施協在宅専門委員会グループホーム小委員会の委員になっており、会議や研修で他の事業所と情報交換をすることでサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申し込みが出た段階から入居が近づくにつれて本人と面談する機会を増やしていき、関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたって、家族が不安に思っていることや本人に対しての思いを大事にし、家族とケアの方向性を共有するようにして関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急の場合も含めて、その時の本人の状況に応じたサービスを勧めるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	地域の行事や習慣、季節の食材の調理法等、スタッフも利用者から学ぶ姿勢で接することで共に暮らすというような関係づくりに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ことあるごとに家族と連絡を取り、近況報告して家族と事業所が本人についての情報を共有して家族と事業所で本人を支えていく関係作りをしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の方々が生活してきた地域へはできるだけ出向くようにしており、買い物や理美容等も行きつけの店を利用するようにして関係が途切れないようにしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮しテーブル配置を決めたり、活動を促す際のメンバーを決めたりすることで、できるだけストレスなく過ごしていただけるようにしている。		

事業者名: グループホーム結の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も相談の内容に合わせて支援していく体制を作っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望、意向については家族から情報を得たり、日頃の会話の中から拾い上げるようにして、本人、家族の意向に沿った生活が送れるように努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、ケアマネ、他のサービス提供者から情報を得るようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態やできること、できないことを把握しており、利用者個々のペースで過ごしていただいている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人からの意見に合わせて計画を立てていき、月一回のカンファレンスや状態が変わった際に状態に合わせて見直しをするようにしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや行動、言動の変化は記録し、スタッフ全員で情報を共有できるようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族からの要望に対してはいろいろな方法を考え、できるだけ早く対応するように心がけている。		

事業者名: グループホーム結の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活用できる地域資源は積極的に活用し、自宅で暮らしていたときとできるだけ同じ感覚で生活できるようにしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の際や体調不良の際にかかりつけ医に状態を報告し、治療が必要であれば、本人や家族の希望にあわせて他の医療機関の受診を勧めるようにしている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一日二回のバイタルチェックを併設施設看護師に確認してもらい、体調不良やバイタルに変化が見られれば相談、助言をもらうようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはこまめに様子を伺いに行き、家族、病院関係者と情報交換をして、状態に合った対応ができるようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に状態が変わった場合についての方針を話し合っており、状態の変化が少しずつ見られるようになった段階で、再度状態に合わせたサービスへの変更や症状によってはターミナルケアも含めて話しあうようにしている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応するようにしている。また、時間帯によっては併設施設看護師に協力してもらうようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を実施しており、避難経路の確認をしている。法人で地域の消防団を交えて避難訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格、誇りを尊重し、場所や内容に合わせて声のかけ方を考えるようにしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の場面を増やすことで、本人の思いや希望が出せるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事や全体での活動以外は利用者一人一人が自分のペースでいたいことをしながら生活できるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好む衣類を選んでもらったり、理美容の希望があればできるだけ早く対応するようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本となる献立はあるが、季節のものや食べたいものがあれば食材を用意し、能力に合わせて調理、盛り付け、配膳、片づけを一緒にしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士が基本となる献立をたてており、それに沿って食事の用意をしている。食事、水分チェックをし、利用者個々の摂取量の変化をみるようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合わせて口腔ケアを支援している。		

事業者名: グループホーム結の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをし、排泄パターンを把握して利用者個々の状態に合わせてトイレで排泄ができるよう支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や漢方薬を使用し便秘予防をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には毎日午後から夕方までに入浴の声かけをしているが、要望があれば夜間の入浴も対応している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の体力や習慣に合わせて休息をとるようにしている。夜間は利用者個々に合わせて寝具や冷暖房を調整し、快適に眠れるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェックをし、処方された薬を確実に内服するようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の能力に合わせた作業を促したり、外出の機会を増やしたりして張り合いのある生活を支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があればすぐに、またはその日のうちに出かけられるように心がけている。外食やイベント見物、水族館見学等も実施している。		

事業者名: グループホーム結の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、本人が管理できる分だけの金額を持っていただくようにしており、買い物に出かけた際に支払いをすることを支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて支援している。手紙や贈り物がきた際には返事を書いたり、電話で話をする支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や飾りものを季節によって飾るようにし、季節感を味わっていただいている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者個々がゆっくりできる場所で思い思いに過ごしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族や本人と相談して自宅で使っていたものや愛着のある物を持ってきていただいたり、部屋でゆっくり過ごしてもらうためのものを用意していただくようにしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の手すりを多くし、安全に自立した生活を支援している。		